資料１

前回までの振り返り・本日の協議ポイント

今回

第1回
諮問・現状
大切にしたい視点、現状と課題の共有

第2回
目指すべき姿や取組
子どもの将来像、特色・魅力化 施策の意見交換

第3回
適正規模 適正配置
望ましい学校規模や条件等の意見交換

第4回
答申案
文案・付帯意見を確認

第5回
答申
最終確認・後日、提出

【諮問事項】 最終的な答申に向けて、諮問事項３テーマを段階的に協議いただきます

1 特色・魅力ある学校づくり
・少子化・多様化・国際化への対応
・各学校規模の強みを生かす魅力化策
・極小規模校でしか得られない教育的価値の最大化
第１・2回

2 適正規模・適正配置
・望ましい学校規模、通学条件、検討基準の整理等
第３回

3 望ましい教育環境の確保
・地域連携、放課後の居場所、校種間連携、支援体制　等
第３・４回

第1回・第2回のまとめ

■第1回で共有された方向性

・学校は、規模の大小にかかわらず、**子どもが安心して過ごし、自分が必要とされていると感じられる場**であること。
・普通規模校、小規模校、極小規模校には、**それぞれ異なる教育上の良さと課題がある**こと。
・**小規模校のきめ細かな指導、地域との近さ、異学年の関係を生かしつつ、人間関係の固定化や交流機会の不足を補う**こと。
・不登校、特別支援、個別の特性等に応じ、**子どもに合った学びの場と支援を用意すること**。
・**幼稚園・保育園等から、小学校、中学校、高校、大学まで の連携、学校と地域・大学・企業の連携を強める**こと。
・統廃合ありきではなく、**各学校の特色をどのようにつくり、互いの課題をどう補うかを考える**こと。

■第2回で具体化された方向性

・15歳時点で、**自ら問い、目標や進路を考え**、判断し、失敗を恐れず**挑戦できる子ども**を育てること。
・多様な人と対話・協働し、正解のない課題に対して**新しい価値を生み出す力**を育てること。
・名寄の自然、農業、食、雪、スポーツ、天文、人のつながり等を学びに生かし、**地域への愛着と誇りにつなげる**こと。
・学校間交流、大学・地域との学習、特認校への通学等を可能にする**交通手段を、教育条件として検討する**こと。
・中名寄小学校・智恵文小中学校の魅力化は、**内容、情報発信、通学支援、教職員体制を一体で考える**こと。

第３回（本日）で確認が必要なこと

項目	これまでに話し合われたこと	第3回で確認したいこと
学校規模	規模ごとに良さと課題があり、単純な優劣はない。	望ましい学校・学級規模をどのように示すか 。
通学・交通・その他	スクールバスが特認校、交流、体験活動等のボトルネックになり得る。	具体的な通学距離や通学時間、通学区域についての考え方。
検討開始	将来の小規模化を見越した連携・準備が必要。	どの状態を「早めに対話を始める合図」とするか。
望ましい教育環境	地域、放課後、校種間、支援体制の重要性が示された。	すべての小中学校に保障する教育条件で強調する項目は何か。